

令和4年 広報広聴特別委員会行政視察報告

〔参加委員〕

委員長 高柳 博之
副委員長 加藤 夕紀子
委員 土屋 俊重、清水 秀三郎、渡辺 康德、篠原 勤、大塚 雄一、小林 歳春、
三石 義文、三石 知志、高橋 良衛、市川 稔宣

1 視察日時 令和4年11月14日（月）～11月15日（火）

2 視察先及び視察事項

・静岡県菊川市

「議会だより・SNSの運用・活発な議会報告について」

市民の皆さんに議会により多く関心を持っていただく為に、どの様に広報していくべきか3つの視点で調査を致しました。①議会だよりの誌面づくりの取り組み②SNSの必要性を見定める為、運用方法や利活用に関して③市民の皆さんの意見等を集約した活発な議会報告会の実施に関して。

・愛知県瀬戸市

「議会だより・SNSの運用・活発な議会報告について」

市民の皆さんに議会により多く関心を持っていただく為に、どの様に広報していくべきか3つの視点で調査を致しました。①議会だよりの誌面づくりの取り組み②SNSの必要性を見定める為、運用方法や利活用に関して③市民の皆さんの意見等を集約した活発な議会報告会の実施に関して。

3 視察概要

（1）静岡県菊川市 「SNSの運用・活発な議会報告」について

佐久市の議会だよりでは、今まで広報モニター制度を利用してマイナーチェンジを行ってきた。しかし、時代ともに常に読者に関心をもっていただく誌面作りを心掛けなくてはならない。全戸配布ではあるものの、読者の偏りをどうしても上げる事ができないでいる。

そこで、今後は時代の流れと共にSNSの活用も並行していく必要があるのではないかとの仮説を基に主にSNSの利活用を学びに先進地である菊川市を選定した。

ア 日時 令和4年11月14日（月）午後1時から午後3時

イ 対応 議長、議会だより編集委員会、議会ICT推進チーム、議会事務局長

ウ 内容

菊川市の人口は47,818人。議員定数は17名。

①議会だよりについて

発行回数は年に5回と佐久市と同じペース。市内全戸15,500部を配布しているが、更により多くの市民の皆さんへ読んでいただく取り組みとして、人が集って、待ち時間がある市内金融機関

や、医療機関等約60カ所のロビーに議会広報誌を配置しているとのこと。各所へは議員自ら配布している。その際に関係施設での聞き取り等も同時にできるので、市民との交流のツールにもなっている様子。

誌面では「投稿者より」や「傍聴者より」等の市民の皆さんの生の声も掲載されている。

また、誌面づくりの特徴として記事のコンパクト化を掲げ、できる限り文字数を削減し、分かりやすくまとめ、ゆったりとした誌面づくりに努めているとの事。

一般質問のページは500文字へと減らし、テーマは1人1つとの取り決めをされた。オールカラーに変更し、ページ数も12ページから16ページへとリニューアル。予算は約1,202千円(単価15,51円)

② SNS 運用に関して

市民の議会及び市政に対する監視を高める事を目的として令和3年8月に公式 Facebook ページを開設。他市議会の運用ポリシー・ガイドラインを参考に「菊川市議会公式 Facebook ページ運用方針」を定めた。Facebook を運用しており、フォロワーは令和5年2月時点で427名。

議会のICTを推進するために、「議会ICT推進チーム」を設置し Facebook による情報発信をテーマに活動する中で令和3年8月より運用を開始されている。

更新は月に3~4回程度。記事の内容の精査は事務局が主導で動いているとの事。基本、コメントへの返信はしないと取り決めをした。また、コメント内容によっては削除する事とし、要綱へ予め盛り込んでいる。主な内容としては定例会や議会だよりの内容を載せている。SNSはホームページの更新よりも手軽にできるので、最新の情報を市民の皆さんへお伝えする事が可能であり、継続的に運用し、ICT推進チームにて内容は適宜改訂する予定。

③ 議会報告会

付箋を活用した市民意見の聴取や、全地区対象の「全体会」の開催、参加者への記念品(菊川市議会オリジナルのクリアファイル)の進呈を平成30年度から実施。市民からテーマに基づく意見に関して、付箋を使い聴取してホワイトボードを活用し取り纏める。その場で纏めた内容を参加者全員の前で発表する取組を実施。託児と、手話通訳も準備し、多様な方が参加しやすい環境づくりに努めている。

各区長会へ呼びかけ、主に区の役員や班長に参加して頂いている為か毎回400名以上の方が参加されているので、多種多様な意見が集まっている。若い方の参加率が低く、そこは今後の課題との事。

エ 考察

① 議会だよりの

議会だよりの刷新にあたり、どれだけ目につき、手にとってもらい、読みやすい誌面にするか工夫する内容を編集委員で協議し、反映されたとの事。こうして意見交換させて頂く事で、どこも同じような課題を抱えている事が伺えた。特に、読んでほしい量と読める量の差を縮める事に注力されていた様に思う。また、恒常的に読者のターゲットを決めるのではなく毎号ごとに変えるという点は目から鱗であり、この手法は今後佐久議会で取り入れ可能であると考えます。

表紙の写真は主に市内の隠れた観光のスポット写真を採用されているとの事。佐久市は一般公募に

よりフリーテーマであるが、今後は表紙に関してテーマを持ち募集するなど工夫を凝らしても良いかもしれない。

② SNSの活用について

活用のメリットとしては、「投稿インサイト」機能を使う事でインプレッション（延べ閲覧数）リーチ（閲覧数）、エンゲージメント（いいね、シェア等の総数）を確認する事ができるので、どのような内容に興味が集まっているのか、目につきやすいかを把握する事で、投稿方法改善に繋ぎやすい。また、議会だよりでは中々拾えない、子育て・働き世代へより簡単に議会の情報を拾って頂きやすく出来るツールだと感じた。

視察後の委員会内での協議でもこのSNSの導入に関しては前向きな意見が多数でた。

運用方法をよく練って、今後の導入に向けて準備をして参りたい。

③ 市民との意見交換会

ここ3年程コロナ禍の影響により「議会と語ろう会」は中止を余儀なくされた。

以前より本市での課題として挙げられているのが、参加者の低下。菊川市においては各区長へ開催の案内がなされ参加をお願いしている点において、佐久市も今後検討の余地はあるのではないだろうかと考える。

また、付箋を用いる事で、限られた時間の中で沢山の意見を満遍なく拾える事は議会にとってプラスになるだろうと考える。市民にとっても付箋を使う事によって、発言が苦手な方でも気軽に自分の考えを表現する事ができる為、双方にとってプラスである事から早速、視察後開催した議会と「議会と語ろう会」にて導入をした。



SNSの活用についての意見交換

(2) 愛知県瀬戸市 議会の見える化について

どの様にしたらより、市民へ議会の活動を知ってもらう事ができるかは佐久市議会として大きな課題の1つである。議会の活動を知る上での一番のツールとなるのが「議会の広報誌」であり、他自治体の誌面づくりを参考にしつつ、SNSの普及に伴い、若い年代の方へも気軽に議会活動を知って頂く為にも並行して活用していく必要があるのではないかと仮説を基に、SNSの利活用も学びに先進地である瀬戸市を選定した。

ア 日時 令和4年11月15日（火）午前10時から午後12時

イ 対応 議長、広報広聴協議会会長、副会長、事務局長

ウ 内容

瀬戸市の人口は 128,230 人。議員定数は 26 名

瀬戸市においては「広報広聴協議会」とし、議員全員で構成された協議会を制定。その中で「広報部会」及び「広聴部会」に分かれている。広報部会では主に議会だよりの編集に関する事、議会ホームページに関する事、その他議会の広報に関する事を行っている。また、「広聴部会」においては議会報告会と市民との意見交換会に関する事、傍聴者アンケートに関する事、その他議会の広聴に関する事を担当としている。意見交換会の告知は過去に参加した数人の市民声を顔写真とともに紹介し、まちづくりに参画する意義、気軽に参加できるイメージを伝えるような仕組みを検討している。

①議会だよりに関して

年 5 回の発行で佐久市と同じペース。約 53,700 部、市が発行している広報誌に折り込む形で市内全戸配布。12 ページ、フルカラー。縦書きではなく横書きスタイル。

予算としては令和 4 年度当初予算で約 2,744 千円。編集は広報部にて行われる。令和 3 年度より瀬戸グルメシリーズとして、ウナギやとろろなどを表紙に使った。令和 4 年度には高校生を巻き込み市内にある 4 校の高校に表紙作品として写真やイラストを依頼している。

②SNS 活用に関して

Facebook、Instagram、YouTube アカウントを立ち上げた。

フォロワー数 Facebook 170 名、Instagram のフォロワーは 92 名、YouTube チャンネル登録数 275 名(令和 5 年 3 月現在)運用の管理者は瀬戸市議会議長、運用担当は広報広聴協議会広報部会委員、事務局。コメントは原則返信なし。瀬戸市議会に対するご意見・提言・問い合わせについてはメール又は電話でとしている。月に 1 回程度の頻度で更新をしている。

またその他、議会情報番組をケーブル TV で持っており年 4 回放送、その他ラジオも定例会の前後で行っている。

ケーブル TV の番組制作は議会の情報提供をするため、更にわかりやすく市民に情報提供するため映像と音声を組み合わせた番組制作をする事が有効と考え、ケーブルテレビに番組制作放送を委託されたとの事。予算は令和 4 年度は 1 本当たり、260 千円 4 回分で 1,040 千円。

担当議員がシナリオも決めているそう。シナリオの整理や必要な資料に関しては事務局が担当している。因みに、ケーブル TV の加入世帯率は 23.8% である。

③市民との意見交換会

意見交換会に関しては、8カ所で開催。全員でやるのではなく 6~7 人の常任委員会で 2カ所を回る。テーマに関しては瀬戸市議会が優先的に取り組んでいる 3つの課題をテーマとして設定。テーマに別れてグループディスカッションを行うため、予め参加側の市民の皆さんへも関心のあるテーマについての課題、そして原因とその解決策のアイデア等を考えてきてもらえるようアナウンスをしている。

因みに、令和 4 年度のテーマは、

- ・ごみの分別 ゴミ減量に向けた分かりやすい分別方法を考える。
- ・元気に楽しく暮らす 年齢を重ねても心身の活力が低下しない取り組みを考える

・地域公共交通 市民の安心・安全な移動手段を考える。

意見を委員会等で検討し、市の政策提言に繋げられるサイクルができています。

エ 考察

①議会だより

内容もさることながら、表紙にも注力されている。表紙は大変重要であり、手に取って貰えるかどうか表紙に左右されると言っても過言ではない。佐久市では表紙の写真・イラストを一般募集しているものの、中々応募が少ないのが課題であるが、瀬戸市では高校生を上手く巻き込んだりしながら話題性のある表紙を心掛けていらっしやった。市民全員に募集をかけるのではなく絞りこんだある一定層から表紙を募集するのも良いアイデアだと感じた。ページは若干少な目で、一般質問の内容がかなり簡素化されている印象。また、予算を市民のQ&A方式で掲載されていて普段、市政に興味がない方でも大変わかりやすい記載の仕方であった。一般の方むけに分かりやすくかみ砕いた記事となっているので、特に女性にとって、読みやすいと感じた。多いに参考にしていくべきではないだろうか。

②SNSに関して

菊川市同様、ホームページや議会だよりと連動で活用されている。また、YouTubeの動画をリンクさせる事で、気軽にワンクリックで議会をのぞくことが出来て大変便利だと感じた。

TVの番組制作も議会独自でされているとの事なので、いくつかあるチャンネルを上手く組み合わせているのがSNSであり、投稿に関してはそこまで手間もかからない事が分かった。

YouTubeに関しては動画の撮影が入るのでひと手間かかると思う。

③市民との意見交換会

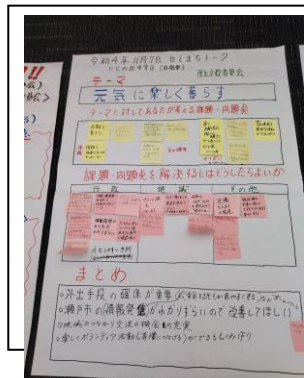
かなり入念な準備がなされている。議会ではファシリテーター研修を受けたりしているとのこと。また、テーマを予め決めているので議員は事前に所管の職員からレクチャーをしっかりと受けて臨んでいる。以前は議会報告会だったが、意見交換会に変更したそう。

瀬戸市もやはり付箋を利用した意見交換会を実施している。解決までに導けない事もあるが、ここで出た提案で良いモノはその後委員会で次のテーマとして協議されるとの事。

佐久市もその様なサイクルではあるが、より市民の方の意見が導けるよう議員のファシリテーター研修を取り入れるのはとても有益だと感じた。



意見交換会の手法説明の様子



付箋を利用した意見のまとめ方